



◀大井川未来予想図検討会のディスカッションの様子。部・課の枠を超えて、互いの意見をぶつけ合う。そこから見えてくるものは、果たして「希望」か「課題」か。
写真中央に座るのが寺本達也所長。

—プラン—
Plan

第1章 企画

「地域と共に未来を創造」を企業理念に掲げる
中部電力㈱大井川電力センター
一昨年、社会貢献活動の一環として
外の視点も採り入れた地域活性化の取り組み
大井川未来予想図検討会3チームを結成
「この町のためにできること」が動き出した

【夢や思いを語り合う
この地域の
「足りない」を探す】

結成された検討チームの概要

- 本町・井川地区活性化検討チーム 地域の施設活用、住民参加イベントの企画や支援などを実施する・松本憲雅リーダー
- 寸又峡温泉活性化検討チーム あかり展への参加や夢の吊り橋活用といった地域資源の掘り起こし・市橋豊隆リーダー
- 井川線収益向上検討チーム 井川線（あぶとライン）の閑散期の集客、イベント列車など企画立案する・佐藤廉リーダー

プロジェクト始動後、まず知り組んだのが、メンバー同士が互いの「夢」や「思い」を語り合う場を設けることだった。メンバーには外勤の職員もいれば、内勤の職員もいる。部・課の枠を超えて集った職員たちが、互

部・課の枠を超えて語る

プロジェクト始動後、まず知り組んだのが、メンバー同士が互いの「夢」や「思い」を語り合う場を設けることだった。メンバーには外勤の職員もいれば、内勤の職員もいる。部・課の枠を超えて集った職員たちが、互

ことを「地域に溶け込んだ、住民目線を忘れない人」だと言う。千頭・小長井を中心としたまちづくり有志の会「こんばんわ会」に所属して積極的に活動したり、地域のバレーボールクラブで汗を流したりする姿をよく見かけるからだ。

「私たち電気事業者は、地域社会に根ざした地域密着の産業。単に電気を供給するだけの存在ではありません。地域社会の発展・振興に貢献することで、地域と共に成長するという使命を担っていると考えます。この地域の発展なくして、私たちの発展もあり得ないんです」と寺本所長は語っている。

所長の呼びかけに集まった職員は総勢20人（現21人）。「大井川未来予想図検討会」と名付けられたプロジェクトが産声を上げた。

プロジェクト始動後、まず知り組んだのが、メンバー同士が互いの「夢」や「思い」を語り合う場を設けることだった。メンバーには外勤の職員もいれば、内勤の職員もいる。部・課の枠を超えて集った職員たちが、互

地域を知るために「歩く」

各検討チームでは、出し合った意見を元に「現地踏査」を実施。まずは自分たちの足で歩き、目で見て、時には出会った住民の声も聞きながら、地域の良さや課題を確認した。

初めて知る素材に出合ったり、予想とは違う点があったりと「意外と知らないことが多い」と実感した。この踏査の結果を繰り返し、さらに意見交換を繰り返して企画を固めていった。

この3つの方向性を軸に、各検討チームを結成。討論を進めていくこととなった。

1本町および井川地区の活性化を図りたい

2寸又峡温泉の再生を図りたい

3大井川鐵道井川線（あぶとライン）の収益向上を図りたい

この3つの方向性を軸に、各検討チームを結成。討論を進めていくこととなった。

いの仕事や生活の中で、気が付いたことや考えたことなど、全員で意見を交わし合った。

「川根茶の需要拡大が必要」「地域行事に積極的に参加を」「寸又峡の活性化を図りたい」「スポーツで町おこしができないか」など盛んな意見が飛び交う中、次第に意見は3つの方向に集約されていく。

きっかけは所長の「鶴の一声」

「5年後、10年後の夢を見よう。そのために何ができるのか、みんな考えてみよう」。

21年1月下旬、中部電力㈱大井川電力センター（千頭）の寺本達也所長は、同センター職員に向けてこう呼びかけた。

大井川電力センターは、職員157人。地域の電力を一手に担う、住民生活に密着した事業所だ。同センターには、事務所勤務する職員から、ダム管理所で勤務する職員まで職種は多岐にわたり、その大半は町外からの転勤組。おおむね3、4年で人事異動があると業務グループの高柳真人課長は話している。

地元の人たちは、寺本所長の



まさと 高柳真人 課長
大井川電力センター業務グループ

大井川電力センターでは社会貢献の一環として、地域の清掃活動への協力、植樹活動の実施、バレーボール大会の開催、ふるさと祭りを始めとするイベントへの参加などの活動に取り組んでいます。寺本所長の呼びかけで一昨年からは始まった「大井川未来予想図検討会」もその活動の一つとして位置付けられています。私もメンバーの一人として参加しています。